

# 個人投資家向けオンライン会社説明会 ミーティングメモ

---

## 仙波糖化工業株式会社 (2916)

開催日：2020年8月29日（土）

場所：札幌ビューホテル大通公園 地下2階『ピアリッジホール』（札幌市中央区）

説明者：代表取締役社長 小林 光夫 氏

### 1. 会社概要

- ・ 仙波糖化工業という社名について、「仙波」は創業者の名前から、「糖化」は昭和21(1946)年当時の創業商材であるカラメルを作るという意味から付けられました。
- ・ 代表者は社長の私、小林が務めています。本社は栃木県真岡市にあり、資本金は15億50万円(2020年3月末)、売上高は207億42百万円(2020年3月期)。従業員は連結で586名(2020年3月末)です。発行済株式数は1,140万株。主な事業内容としてカラメル製品、乾燥製品、冷凍製品、組立製品などの製造等を行っています。
- ・ 当社は食品の色、味、香り、うまみを演出する食品素材メーカーですが、食卓に上がる食品の素材を作っている原料メーカーでもあります。
- ・ 当社の名前は出ておりませんが、皆様が日頃食しているさまざまな食品に当社製品が採用されており、一度は当社製品を食べたことがあると自負しています。

### 2. 事業概要

- ・ 昭和21(1946)年の創業以来、焙焼技術、スプレードライ技術、フリーズドライ技術、造粒技術、ブレンド技術、冷凍技術など、加工食品の成長に伴いさまざまな技術を習得し、73年間事業を行ってきました。平成18(2006)年からは原料以外にも自社の商材として粉末茶、冷凍和菓子の製造を開始し、平成15(2003)年から海外事業も展開しています。
- ・ 創業商材であるカラメル製品は、国内シェアトップと自負しています。カラメル製造では、焙焼技術という砂糖などの糖類を加熱しながら製品を作り分ける技術が使われます。その焼き具合には何段階もあり、その段階別にそれぞれ焙焼糖、コク味調味料、デザートソースなどの製品になりますが、最終的に着色料のカラメルになります。カラメルは清涼飲料、コーラ飲料、アルコール飲料、ソース、カレーなどの着色料として使われます。また、一般食品では、プリン、アイスクリーム、ケーキ等に使われます。用途別のカラメルの売上構成は着色用67%、一般食品用33%となっています。また、カラメル製品全体売上高は右肩上がりです。
- ・ 乾燥製品類事業は、主にスプレードライ技術を用いた粉末製品とフリーズドライ技術での乾燥製品を製造しています。粉末製品の主力は粉末茶や粉末調味料(醤油・味噌)で、凍結乾燥製品は、ラーメンの具材に含まれる野菜ブロックや粉末山芋などが主力です。この事業の売上高の約80%はB to Bとなっております。乾燥製品類の売上構成は、粉末

---

大和インベスター・リレーションズ(株) (以下、「当社」といいます。)はこの資料の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに記載された意見等は当社が開催する個人投資家向け会社説明会の開催時点における当該会社側の判断を示すに過ぎず、今後予告なく変更されることがあります。当社は、ここに記載された意見等に関して、お客様の銘柄の選択・投資に対して何らの責任を負うものではありません。この資料は投資勧誘を意図するものではありません。当社の承諾なくこの資料の複製または転載を行わないようお願いいたします。

---

製品が約 70%、凍結乾燥製品が約 30%で、売上高も堅調に推移しています。粉末茶では、煎茶、ほうじ茶、麦茶、紅茶などを製造しています。一般の方には仙波糖化工業と粉末茶のつながりがわかりにくいと思いますが、当社は業務用給茶機などに粉末茶を提供しており、業界 2 位の売上規模を誇ります。

- ・ 冷凍製品事業では冷凍和菓子を製造、メディケア市場（病院や老人ホームなどの高齢者施設）向けに販売しています。小さめの和菓子に特化し、使い勝手がいいと高評価をいただき、現在約 50 種類を販売しています。冷凍山芋は、主に業務用として居酒屋、外食、コンビニエンスストア商材向けに販売しており、取扱量は業界 2 位です。また、中国の子会社ではタピオカやライチゼリーなど、デザート系の冷凍製品を扱っています。この冷凍製品事業も、近年売上を伸ばしています。
- ・ 組立製品類事業というのは、複数の種類の原料を混ぜ合わせて、さまざまな製品に組み立てる事業です。コーンスープなどのスープ類等は造粒という技術で製造していますが、こちらは委託・受託加工が中心で、取引先のブランドで作ることが主体となっています。また、現在は健康食品、スポーツサプリメントやダイエタリー用健康食品製品の受託が売上を牽引しています。
- ・ 2020 年 3 月期の製品種類別収益状況は、当社の 4 つの柱（キャラメル製品、乾燥製品類、冷凍製品、組立製品類）が、ほぼ同程度の売上比率になっています。連結売上高は 207 億円、連結営業利益は 10 億 50 百万円でした。

### 3. 利益成長に向けて

- ・ 当社は経営方針として、すべてのステークホルダーの皆様からの信頼を拡大していくことを挙げています。当社は創業から 73 年を経過し、100 年企業まで 30 年弱ですが、健全な 100 年企業になるため強固な基盤を構築していきたいと考えています。そのためには株主、顧客、従業員、地域社会というステークホルダーの皆様にご貢献していくため、営業キャッシュフローの最大化と、今後の海外市場の開拓も含めて、より良いものを作って顧客信頼度を向上させ、収益を伸ばすことで、株主、従業員、地域社会への還元を増やしていきます。
- ・ 経営戦略としては、基本戦略の 3 本柱があります。1 つ目が「グループ経営力強化」。海外子会社の管理強化、個別経営からの脱却といった連結の部分を強くしています。2 つ目が「自社商材拡販」。開発強化、提案営業の強化を行っています。そして、「海外市場開拓」としての中国・東南アジア市場対応です。この基本戦略の目標としては、営業キャッシュフローの最大化を目指すことが挙げられます。それによる成長投資資金の確保と還元強化ということを戦略として考えています。
- ・ 営業キャッシュフローは順調に拡大しています。その中でも自社商材の売上拡大が大きく寄与していると考えます。
- ・ 海外事業の収益基盤強化はほぼ想定線に沿って進捗しています。「海外子会社の管理体

---

制強化」ということでは、中国企業との合弁である龍和食品の董事長（日本でいう代表取締役）に当社の常務取締役が就任し、経営体制を整えています。中国と日本は会計制度が少し違うため、新会計基準を導入する予定です。また、収益力強化のために 100% 子会社である福州仙波と龍和食品の工場運営一体化を図った新工場が今年から稼働しています。

- ・ ベトナムには昨年 3 月、当社の子会社として仙波糖化ベトナム（SEMBA TOHKA VIETNAM）を設立。当社の常務が代表取締役社長として就任しています。今年 3 月から新工場の建設を開始、2021 年度内には完成を目指しています。また、日本でベトナムの研修生を受け入れ、製造を担当してもらう予定です。
- ・ 今期の重点施策としては、「海外事業の収益管理強化」を掲げております。これには中国子会社の収益管理体制の強化に加え、グループ・シナジーの追求も含まれます。私も日本の仙波糖化、中国の龍和食品と福州仙波、この 3 社の力を合わせ、中国市場向け自社商材の開発にも注力していきます。
- ・ 福州仙波では当社が前々から得意としている粉末製品、カaramel製品を、龍和食品ではフリーズドライ、エアドライという乾燥製品、冷凍製品、冷蔵製品（チルド製品）を生産しており、一体運営をすることで日本とほぼ同様の事業構造となります。
- ・ ベトナム事業としては、来年度以降、ホーチミン市から 40km のところにある仙波糖化ベトナムで、食品原料、食品添加物、商品の製造を行い、東南アジア市場を中心に販売していく予定です。

#### 4. 2021 年 3 月期業績予想

- ・ 今年度の業績予想については、新型コロナウイルス感染症の影響があり非常に難しいところです。当社は、今期の決算発表時に新型コロナウイルス感染症の影響を生産面と需要面の前提条件を開示し、業績予想を公表いたしました。
- ・ 生産面は、国内はほぼ影響は出ませんが、中国子会社は、第 2 四半期まで影響が大きく、その後回復、第 4 四半期で正常化と想定いたしました。
- ・ 需要面では、巣ごもり需要増加が見込まれる一方で、外出自粛や事業活動制限による一部製品の落ち込みを織り込みました。基本的には、需要面は第 2 四半期を底に回復し、第 4 四半期では影響がなくなるという前提といたしました。
- ・ 第 1 四半期における業界環境は、外出自粛の要請で外食やコンビニエンス向け来店客数の落ち込み、事業活動制限の影響によりオフィス向け給茶機向け商材やジムや部活動中止で一部の健康食品受託が減少いたしました。一方で、巣ごもり需要の即席めんや加工食品向け製品需要は増加いたしました。結果的には、想定範囲内に収まりましたが、足元の感染拡大の状況を考えますと、第 4 四半期正常化のシナリオは少し懸念が生じている可能性もあります。
- ・ 先般発表した第 1 四半期の業績は、新型コロナのマイナス影響が大きく、売上高が 5.7%

---

減収の 4,767 百万円、営業利益は販管費を大幅に絞り込みましたが、減収要因をカバーしきれずに 15.5%減益の 199 百万円となりました。ただ、第 1 四半期の数字としては、想定線で収まっています。

- ・ 2021 年 3 月期通期の予想としましては、売上高 20,400 百万円（前期比 1.7%減）営業利益 930 百万円（同 12.0%減）と当初予想を据え置きました。

## 5. 株主還元

- ・ 株主還元については、安定配当の維持を基本にしていますが、1 株当たり年間配当金は 2015 年 3 月期の 8 円に比べて 2016 年 3 月期、2017 年 3 月期は 10 円、2018 年 3 月期は 12 円、2019 年 3 月期、2020 年 3 月期は 15 円と、少しずつですが増やしています。配当性向は、2021 年 3 月期の予想として 31.6%となっています。
- ・ 株主優待については、9 月 30 日時点において 5 単元（500 株）以上保有の株主様を対象に自社製品をお送りしています。3 年未満の 500 株以上保有の株主様には、昨年の例では粉末のお茶、コーンスープ、オニオンスープなど 3,000 円相当をお送りしています。3 年以上保有の 500 株以上の株主様には 5,000 円相当をお送りしております。

## 6. 質疑応答

Q1. 新型コロナウイルス感染症の影響と今後の見方を教えてください。

A1. 当社は 5 月の決算発表に際しまして、今年度の業績予想に新型コロナウイルス感染症の影響をどう織り込むのかを、生産面と需要面に分けて開示いたしました。新しいウイルスによる感染症ですので、急速な正常化の見込みは薄いと的前提に立っています。第 1 四半期では、巣ごもり需要の増加など、外出自粛による外食・コンビニエンスストアの来客数減少、在宅勤務などによる事業活動制限による製品需要減少の影響が、予想を大きく超えてしまいました。緊急事態宣言解除後には、コンビニエンスストアや外食も少しマイナス幅は圧縮されてきたと思いますし、スポーツジムなども営業再開しており、ある程度は経済活動も動いてきていると実感しています。ただ、東京、大阪という最大の消費圏を含めて、新型コロナウイルス感染症の拡大が止まったとは言いやもない状況にあり、まだまだコンビニエンスストア、外食などの来客は少なく、特に夜の営業の自粛による影響もあります。実際に今年度正常レベルに戻るかとなると、懸念が残るところです。今話題になっていますが、ワクチンが早く認可され、インフルエンザと同じような形に何とか収まってくれば、当社の製品、原料の需要回復が早くなるのではないかと考えています。

Q2. 還元原資強化といったキャッシュフロー重視の経営としていますが、株主還元をどう認識していますか。

A2. 当社としては、成長資金の確保と配当原資の強化の両方を目指すために、営業キャッ

---

シュフローの最大化を目標に経営を進めています。私どもの会社の事業規模は小さいため、収益力はまだまだ満足のものではありません。もう少し今後の成長に向けての投資が必要であると思っています。ただ、私ども食品の世界は、投資回収期間が非常に長いことから、いつ何時、金利が反転するかも想定しながら経営しなければなりません。国内でも当然ながらさまざまな取り組みを行っていますが、海外の投資に関しては、少し先を考えて先行投資を行っていますので、海外での利益部分については、海外での再投資にまわす計画です。過去3年間の連結配当性向は25.4%でしたが、単体ベースでは40.4%でした。利益を伸ばし、配当金を増やすことが第一目標です。今期は新型コロナの影響で業績は悪化してしまっていますが、当社は、安定配当を基本としておりますので1株当たりの配当金は15円を維持する予定です。今後、重点施策を着実に遂行し収益力を強化することで、株主様に少しでも配当を高く出せるようがんばっていきたくと考えています。また、当社は、5年前に株主優待制度を導入しました。毎年、優待品は見直しておりますので、株主さまには、自社製品に対する感想や意見をどしどし言っていただきたいと思います。と思っています。

Q3. 中国新工場の稼働状況はどうか。

A3. 中国の春節といって、日本でいうお正月が1月末頃にありましたが、その頃から新型コロナウイルス感染症が出てきて、瞬間的にはさまざまな問題が発生しました。私どもの中国の工場は福建省福州市の連江（レンジャン）という少々田舎にあります。そこが一度完全に封鎖されましたが、その後2月末から3月に工場の稼働が許可されました。工場の機械自体は問題がなかったものの、中国では昔の日本のように、田舎の省から出てきて、仕事をして1年後に田舎に帰るといふ方々が多いのですが、そういった方々が帰ってこられなかったということが3月、4月頃にありました。その後は、そのような問題も解消の方向に向かっており、順調に稼働しています。

以上